

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901043		
法人名	社会福祉法人 旭川健翔会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	旭川市豊岡4条6丁目4番27号		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年5月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成14年度に開設し、本館2階と隣接の別館2階がグループホーム、1階が通所介護、居宅介護支援事業所、訪問介護、別館の1階が小規模多機能型介護事業所となっている。手芸、書道、折り紙、カラオケ、民謡などの教室として事業所を地域住民にも開放したり、駐車場を朝市に提供するなどの地域貢献も行っている。利用者本位のケアに努めており、利用者の希望に応じて、図書館や友達との食事会の送迎なども行っている。利用者は事業所内の多くの行事に参加したり、外に出かける機会も多い。地域との協力関係も良好で、施設長、管理者は常に交流の機会を考えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901043&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年3月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、運営者が「お年寄りに寂しい思いをさせない」をコンセプトとして、平成14年に開設した。家庭的な雰囲気を構築するため、多面的に考慮した個別ケアを提供している。管理者は日常的に地域住民との触れ合いや遊びリレーションを重視し、ご飯をおひついで出し、利用者自ら盛り付けするなど残存機能を維持できるよう配慮している。日ごろより施設内外を地域に開放し、交流の拠点とすることで、地域住民との積極的な交流に努めている。職員はキャリアを越え、互いに認め合いケアサービスの向上を目指している。利用者や家族からの意見等については真摯に受け入れ、迅速に対応し、信頼を得ている。また、家族へは利用者の日常生活での何気ない表情を写真に収め「介護員から一言」、「看護師より健康報告」も書き添えるなどの工夫をした便りを毎月発行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作成し、職員間で共有し、理念に基づき、実践している。	地域密着型としての役割について事業所内で再検討し、平成20年に新たに基本理念を作成し、標榜している。個人の人格を尊重し、利用者の意思を大切にしながら、自立的な生活を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設を地域に開放し、地域の方の中に利用者も混ぜ、地域の一員として交流をしている。	事業所を地域交流の拠点として位置づけし、ふれあいサークルの文化活動を行ったり、駐車場を地域住民に朝市の会場として提供するなど、地域住民と積極的に交流することに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でも、認知症についての話し合いや、地域包括センター主催の寸劇にも参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用状況説明や取り組みの報告の段階で意見が出た時には、その旨を検討しサービス向上に努めたいと考えている。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。会議では、事業経過、利用者状況、サービス内容やふれあいランチ等について意見討議するなど、多くの議題を取り上げている。また、運営推進会議を通して多方面との連携や協力関係を大切にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や理解に困った時は、担当者に電話で聞いたり、出向いたりして、教えて頂いて対応に当たっている。	市の担当者や地域包括支援センター職員に、事業所の実情やサービスの取り組み状況を報告し、連携を図り、相談などを行っている。また、市や上川保健所主催の会議や研修会等に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、全職員が施設内勉強会を行い、共有することで、玄関の施錠等行わず、見守りを重視している。	マニュアルを整備し、内部研修をする中、身体拘束をしないケアのため、管理者は職員に意識化を徹底している。日々のケアの中で言葉による拘束につながらないように、利用者への言葉かけに配慮している。夜間は安全のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員でマニュアルに沿って、勉強会を行って学んでいる。 又、入浴等に身体の観察を十分に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター等で開催する研修会に参加し、勉強した事等を施設内勉強会で全職員に伝え、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、理解をして頂き、納得してもらっている。 又、ご家族のお話や状況を十分にお聞きし、不安を解消して頂けるよう関わっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者やご家族が、意見や希望を言える事が出来るし、お聞きする耳を持つことを大切にしている。	利用者や家族からの意見等については真摯に受け止め、その要因を管理者、職員で話し合い、スピード感のある対応で支援や運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例ミーティングを行っており、勉強会を行ったり、職員の提案等を出してもらい、皆で検討し、良い事は実行している。	管理者は職員のスキルアップを目指し、日ごろより意見や提案を受け入れ、それを活かしながら質の確保につなげている。また、職員同士が互いに認め合う関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務姿勢や実績を重視し、昇給や手当等に反映させている。 又、向上心を持って働いてもらえるよう、環境や条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護力を把握し、施設内の勉強会はもとより、外部の研修にも参加させており、各協議会の研修会の情報も提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の包括支援センターで開催する研修会や寸劇に参加する等、ネットワーク作りに参加し、交流を深めると共に、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での生活状況を把握するよう努めると共に、個々に困っている事がないか、何かしてほしい事がないか聞き、受け止めるよう努力すると共に、安心して過ごして頂けるよう配慮することに重視した関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや、不安に思っている状況をよく聞き事業所として、どの様な支援が必要かを話し合い、ご家族に安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、現在の状態を確認し、支援内容の提案等を何度もご相談しながら、必要なサービス内容につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	嬉しい事、楽しい事を職員と利用者さんが、一緒に喜び、悲しい時も一緒に支え合いながら暮らすことにより、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの日々の暮らしの中の出来事や気づきを報告し、一緒に喜び合って本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前の馴染みの深い方に遊びに来て頂けるよう配慮したり、出向いて行けるよう送迎し、関わりを継続できるよう配慮している。	地理的な事情で来訪が困難な知人については送迎のサービスも行い、ゆったりと過ごせるよう配慮し、関係が途切れないよう支援に努めている。利用者の意向により図書館や墓参りなど、利用者の思いが叶えられるような支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立した生活にならないよう、一日の生活時間の中で、居間での共有の場と、居室での自分の時間を作り、その方に合った時間作りを行っている。 又、毎日のお茶の時間には、職員も一緒に入り、利用者同士の関係が円滑に出来るよう関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の状況等をお聞きしたり、何か相談等がありましたら連絡頂けるような関係を大切にしている。又、他の事業者に移られた方の所に、職員と一緒に遊びに行ったり来たりと交流を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向をしっかり受け止め、本人らしい暮らしをご家族を交え検討し、個別に支援している。	利用者一人ひとりに関心を払い、職員が介護サービス提供時の気づきを支援経過表や業務日誌に記録している。それらをもとに思いや意向の把握に努め、日々の生活の中で活かす仕組みに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に現在迄の生活歴を本人とご家族よりお聞きする事と、毎日の会話の中から引き出すよう働きかけを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや業務日誌の記録等で一日の過ごし方が把握出来ている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの希望又は、介護面での変化等をミーティング時に話し合い、お互いの意見等を出し合い、反映された計画を作成している。又、期間終了前に見直しすると共に、状態が変化した時には、終了する前であっても話し合い、見直しを行っている。	利用者の生活がさらに充実するよう、本人や家族を含めた話し合いをしている。その中から介護支援専門員を中心に課題を見つけながら、利用者に沿った介護計画を作成している。利用者の体調に変化が生じた場合は、家族に説明し、計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過等の記録に日勤帯、夜勤帯等色分けし見やすい記入を行っている。勤務に入る前には、必ず確認を行ってから業務につくよう義務付けしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望とご家族の希望に応じ、常に柔軟なサービス提供を活かし支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が望まれる、デパートや本屋、郵便局、銀行等にお連れしている。又、公共の場を利用し、歩行訓練にも行く事で、楽しみや満足感を持って頂いている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医としている。又、受診や通院はご家族の希望に応じて支援している。	利用者が健康に暮らせるよう、事業所と医療機関は密に連携を図っている。かかりつけ医は利用開始前の医療機関を継続して利用できるよう配慮している。毎月の便りや、看護師からの健康報告も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯と夜勤帯での勤務の中で気づきや変化を、すぐ看護師に報告する事を徹底している。その後、看護師の指示を受け、適切な看護や受診等に結びつけている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状が安定した場合等、早く安心して暮らせるよう、施設で出来る状況を病院側に伝え、ご本人やご家族の希望があれば相談に努め、速やかな退院支援に結びつけている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を十分に把握し、本人の希望とご家族等の意向も伺い、主治医に伝え、主治医とご家族との確認をし、身体状況の変化のたびに繰り返し話をすることで、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに目を向け支援につなげている。	重度化や終末期の利用者と家族を支えるために、事業所ができる最大限の支援に努める方針を示している。重度化した場合には、家族や医療機関と連携し、病状に応じて家族の気持ちを確認しながら、利用者や家族に対して温かな支援をしていく体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルの勉強会及び応急手当の実技勉強会を行い、お互いに実技を行い合い訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と一緒に避難誘導訓練と消火訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いし、地域での協力体制が出来ている。	両ユニットとも2階に居室があるため、迅速適切な対応がとれるよう消防署の協力のもと、避難訓練をしている。また、町内会とは防災協力に関する協定書を交わすなど、相互協力体制を構築している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あさがおの理念であります「意志」と「人格」を尊重した関わりと、ご本人のプライバシーを損う様な言葉を使わないケアを徹底した、支援を行っている。	管理者は利用者への言葉遣いを職員に徹底させ、職員は利用者の尊厳を重んじ、プライバシーや誇りを損ねることのない声かけや対応等に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも職員が決めて、おしつけるのではなく、いくつかの選択肢を提案して、利用者が自分で決めて頂けるよう関わっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切に過ごしてもらい、それに向けて職員が支援を行っている。 又、図書館や買い物等一人ひとりの気持ちに配慮しながら対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えについては基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや介助が必要な時、手伝うようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の味見や調理で出来る事は一緒に行っている。誤嚥に注意し、見守り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食べている。 又、準備や片付けも一緒に行っている。	ご飯は各テーブルごとにおひつで置き、利用者自ら盛り付けるなど残存機能を維持できるよう配慮している。誕生会や外食の機会を多く持ち、食事が喜びや楽しみとなる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態により、必要な人に対してはチェック表の記録を行っている。 又、定期的な嗜好調査により嗜好を把握し、栄養バランスにも配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきと入れ歯洗浄の声かけを行うと共に見守りの中で口腔ケアを行ってもらっている。 又、食事の時に歯の状態にも観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄表を作成し、排泄間隔をつかみ、誘導する事を行い、極力トイレでの排泄に心がけている。	排泄表で、おおよそのパターンの把握と、排泄の状況を職員間で共有しながら、表情や仕草などを見極め、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる等配慮し、十分な水分摂取の声かけと体操やゲームに参加して体を動かすことにより、腸のぜん動をよくするよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を第一に考え、入浴を提供し楽しんで頂いている。	一人ひとりの生活習慣やその時々を大切に、個別に沿った支援をしている。安全面の配慮やゆったりと入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせて、安心した眠りや休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬局より頂く効能表を読むことにより認識を深めている。服薬時はきちんと服用できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や好みを把握し、クラブ活動やレクリエーション等で楽しんでもらっている。 又、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を極力叶えるように努めている。ショッピングや図書館、ご家族との食事会、地域の友人との食事会等外出しているし、送迎も行っている。	心身の活性化につながるよう、買い物やドライブスルーに出かけ、雪のない季節には朝食前に事業所で設置しているプランターの水やりを兼ねた散歩にも出かけている。また、日常的な外出とは分けて、墓参りなどのより個性の高い外出についても本人の希望を叶えるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分理解し、ショッピングや理美容でも自分の財布から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の居室に電話の設置が出来るようになっているが、携帯電話を持っている方が多い。手紙もポストに職員と一緒に出しに行く支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光等、スクリーン等で配慮し、季節の花鉢等を置き、居心地良い暮らしに努めている。	リビング・ダイニングが一体となった空間はゆったりとしたスペースがあり、キッチンもつながっていることから、調理の匂いや音を感じることができ、家庭的な温もりが感じられる。またサークル講師から提供された生花で季節が感じられ、居心地良く過ごせるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食堂等好みの場所を選択して過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを、ご家族と相談し持ち込まれていて、居心地の良い生活空間を作っている。	ボードを設置したり、個々に応じて布団を使用するなど、生活しやすい居室づくりを支援している。使い慣れた家具や本人が大切にしている品を持ち込み、好みを活かして過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全事業所をバリアフリーとし、手すり及び介助バーを設置し、安全な生活が送れるよう配慮している。		